

受付番号

2021-35

許可番号

大歯医倫 第 111187-0 号

研究課題名

習慣性顎関節脱臼患者に対する自己血注射療法の有用性に関する臨床研究

研究責任者

吉田 博昭

申請者

吉田 博昭

研究終了日

2026 年 3 月 31 日

所属

口腔外科第一講座

所属

口腔外科第一講座

職名

講師

職名

講師

申請の概要

一般に、習慣性顎関節脱臼患者は摂食障害、欠伸、談話、歯科治療時などにおける顎関節の脱臼の不安感が強く、罹患患者の心理的不安と苦痛が大きい。従来、顎関節脱臼患者に対しては顎関節結節形成術などの観血的治療が有効であるが、高齢者や全身疾患を有する患者などには身体的リスクを理由に適応が困難である。また、顎外固定などの保存的治療は再発率が高く、そのため、対応に難渋することが多い。近年、自己血注射療法の有用性に関する症例報告が散見されるようになった。本治療法は患者の自己血を採取し、それを患側の顎関節周囲に注射する方法で、低侵襲の治療法として注目されている。しかしながら、本治療法の報告例は未だ十分でなく、治療効果の発現機序や予後については不明な点が多く、その解明が必要である。本研究では習慣性顎関節脱臼患者への自己血注射療法の有効性、安全性および治療予後を明らかにすることで、有用な治療法としての意義を確立し習慣性顎関節脱臼患者への治療戦略を拡大することである。観血的治療が困難と判断された研究対象患者 30 例に自己血注射療法を施行し、術後の顎関節脱臼再発の有無や MR 画像検査のデータを収集する。術式は患側（片側または両側）の顎関節周囲に浸潤麻酔後、上関節腔にパンピングを行い関節腔内に注射針を到達させる。ついで、過去の研究報告に準じ、末梢静脈血 5 ml を前腕部から採取し、上関節腔内に約 2 ml、関節周囲に約 2 ml 注射する。術後は再脱臼の予防として弾力包帯などで簡易固定を施行する。術後翌日、1 週後、1 か月後、3 か月後、6 か月後、12 か月後まで、経過観察を行い、顎関節運動の再脱臼の有無について評価する。尚、術直後、1 か月後、3 か月後に MR 画像検査を施行し、器質的変化の評価を行う。